
死神の鎌

羅李夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死神の鎌

【Nコード】

N9855L

【作者名】

羅李夢

【あらすじ】

ある少女に死を宣告するために、死神は現れる。少女が悲鳴を上げ、泣き叫ぶことを期待しながら。しかしその少女は、死神である自分を見て、ゆっくりと微笑みかける。

死神

何故自分は、死神というある種滑稽極まりない存在へと成り果て、此処に存在しているのだろうか。

薄暗い空間で、1人の死神はふと思う。

気がついたら真っ黒いフードを被り、全身がマントのような服に覆われ、漆黒のブーツを履いていた。

素肌が見えるのは、僅かに口元と手首から先の部分のみ。やけに白く血の気が悪く、やはり自分は死者であることが納得できる。

だが、何時どのように死んでこうなったのかが分からない。

とりあえず、自分は死神界の下っ端の下っ端であることは自覚している。生きていた頃の記憶は一切無いが、死神として過ごしてきたのはまだせいぜい1年と少し程度だろう。

カレンダーや時計がある訳ではないので、詳しくは分からないが。

死神の役目は、人間に死を宣告することだ。

人間は本来、全ての者が寿命が尽きるまで、120歳程は軽く生きることが出来るようになっていた。

病気や交通事故での死亡の場合、予め死神に死を宣告されることによつて初めて、寿命でない死を迎えることになる。

とは言つても、死神が人間を殺すことが出来る訳ではない。

死ぬであろう運命が待ち受けている人間にのみ死を宣告する。知らせていないと、その人間は死なない。

一見矛盾にも聞こえるが、死神というシステムはそうにつくられていた。

自分はまだ死神として幼い。

死神（後書き）

初めての投稿作品、終わるかどうかが非常に心配でしたが、ご覧になっていただけたら幸せです。

誤字脱字、この表現おかしいだろは、どうかご容赦ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9855/>

死神の鎌

2010年10月8日14時03分発行